

平成 26 年 度

運営に関する

計画・自己評価書

年度末評価

大阪市立大淀中学校

目次

P1	…	総括シート1	中期目標
P2	…	総括シート2	年度目標と総括
P3～6	…	目標別シート1	【視点 学力の向上】
P7～10	…	目標別シート2	【視点 道徳心・社会性の育成】
P11,12	…	目標別シート3	【視点 健康・体力の保持増進】

総括シート 1

大阪市立大淀中学校

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、年度ごとに大淀中学校「学校教育改善アクションプラン」を策定し、取り組みを進めている。テーマを「わかる授業の創造とできる学力の定着」「信頼される学校づくり」とし、サブテーマごとに課題解決に向けた取り組み内容を明確に示し、教育活動に取り組んでいる。
(平成26年度学校教育改善アクションプラン 参照)

【視点 学力の向上】

○平成27年度学校評価アンケートにおける「学習の仕方を工夫したり、わかりやすい学習に取り組むなど、授業を改善する工夫を行っている。」の数値を70%に向上させる。
(カリキュラム改革関連)

○平成27年度学校評価アンケートにおける「自分が努力した過程や結果が適切に評価されている。」の「よく」を10%向上させる。
(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

○平成27年度学校評価アンケートにおける「学校は、地域のボランティアを活用するなど外部の人材を活用している。」の数値を10%向上させる。
(ガバナンス改革関連)

○平成27年度全国・学力学習状況調査における「将来の夢や目標を持っている。」の数値を70%に向上させる。
(カリキュラム改革関連)

○平成27年度学校評価アンケートにおける「学校のきまりや社会のルールを守っている。」の「よく」を10%向上させる。
(マネジメント改革関連)

○平成27年度学校評価アンケートにおける「自分の考えや意見を自分の言葉で発表している。」の数値を10%向上させる。
(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】□

○平成27年度「全国体力・運動能力、運動習慣調査」において、特に課題である「長座体前屈」の記録を、平成24年度より向上させる。
(カリキュラム改革関連)

○平成27年度学校評価アンケートにおける「自分の健康に気をつけている。」の「よく」と答えた数値を10%向上させる。
(カリキュラム改革関連)

総括シート 2

大阪市立大淀中学校

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

○平成26年度学校評価アンケートにおける「学習の仕方を工夫したり、わかりやすい学習に取り組むなど、授業を改善する工夫を行っている。」の数値を60%に向上させる。
(カリキュラム改革関連)

○平成26年度学校評価アンケートにおける「自分が努力した過程や結果が適切に評価されている。」の「よく」を5%向上させる。(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

○平成26年度学校評価アンケートにおける「学校は、地域のボランティアを活用するなど、外部の人材を活用している。」数値を5%向上させる。
(ガバナンス改革関連)

○平成26年度学校評価アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えている。」の数値を70%に向上させる。
(カリキュラム改革関連)

○平成26年度学校評価アンケートにおける「学校のきまりや社会のルールを守っている。」の「よく」を5%向上させる。
(マネジメント改革関連)

○平成26年度学校評価アンケートにおける「自分の考えや意見を自分の言葉で発表している。」の数値を60%に向上させる。
(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

○平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である「長座体前屈」の記録を、全国平均並みに向上させる。
(カリキュラム改革関連)

○平成26年度学校評価アンケートにおける「自分の健康に気をつけている。」の「よく」と答えた数値を40%に向上させる。
(カリキュラム改革関連)

3. 本年度の自己評価結果(年度末)の総括

本校では、保護者及び生徒アンケートを対象とした学校評価アンケート結果の分析を踏まえ、『大淀中学校 学校教育改善アクションプラン』を策定し、教育活動の向上をめざし取り組みを進めている。今年度は、取り組みの柱の一つ目として「わかる授業の創造とできる学力の定着」、二つ目として「信頼される学校づくり」を掲げ、教育活動の改善に取り組んできた。

この『大淀中学校 学校教育改善アクションプラン』を基盤とした教育活動全般にわたる取り組みの評価については、「運営に関する計画」の策定にあたって、学校運営の中期目標、及び中期目標の達成に向けた年度目標に数値目標を設定し、検証してきた。

数値目標は昨年同様、前年度の結果を基準として設定している。昨年度は数値を下げたが、今年度については、どの項目も一昨年度の数値を上回る結果となった。とりわけ『大淀中学校 学校改善アクションプラン』により進めてきた授業改善に取り組んだ成果がアンケート結果からもうかがえる。

課題としては、生徒・保護者のアンケート結果から、生徒と保護者の意識のずれが感じられるため、来年度は「信頼」をテーマに、「生徒・保護者・地域の期待、願いに応える教育」、学校教育としての責任と自覚のもと、「確かな取り組みと正確な情報発信」を進めていくよう、来年度の『大淀中学校 学校教育改善アクションプラン』を策定していきたい。

目標別シート1-1【視点 学力の向上】 教科（国語～音楽）

大阪市立大淀中学校

評価基準 A : 目標を上回って達成した

B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが、目標を達成できなかった

D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成 状況
○平成26年度学校評価アンケートにおける「学習の仕方を工夫したり、わかりやすい学習に取り組むなど、授業を改善する工夫を行っている。」の数値を60%に向上させる。(カリキュラム改革関連)	B

年度目標達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		達成 状況
取組① 【区分 国 語 科】 各学年ごとに独自プリントを作成する。漢字の小テスト、音読テストを実施する。副教材、音声CDを活用する。(カリキュラム改革関連)		A
指標	各テストの結果と学期ごとにノートなどを点検し、アンケートを実施する。	
結果と 分析	2回のアンケートの結果とも、80%以上の生徒が「授業がよく分かる」「どちらかと言えばそう思う」と答えている。各学年とも独自の漢字プリント、小テストなどを実施した。副教材、音声CDもよく活用した。	
今後の 改善点	生徒は授業中の発言も活発で、積極的に参加している。来年度も引き続き意欲的な姿勢を大切にしたい。	
取組② 【区分 社 会 科】 T.T.を通じて生徒の理解を深める(カリキュラム改革関連)		B
指標	単元課題を与えて提出させ、生徒の理解の深化を確認する。	
結果と 分析	各学年とも40枚前後の大単元ごとのまとめのプリントを作成し用いて理解の深化を図った。	
今後の 改善点	プリントの枚数を昨年より増やしたが、評価作業に追われ、精選されたかどうかの検討が十分とは言えなかった。しかし、次年度へつながるようにはした。	
取組③ 【区分 数 学 科】 自学自習をベースにした「学び方」を指導し、取り組みを進める。 学び合い活動を推進し「わからないところ」を積極的に教え合う学習環境づくりに努める。 (カリキュラム改革関連)		B
指標	生徒アンケートを実施し、把握する。	
結果と 分析	アンケート項目の中の「自学自習できる」の「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が82%、「わからないところを質問しやすい」の「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が87%であった。概ね、取り組みの成果が出ている。	
今後の 改善点	自ら「課題」を見つけ、積極的に学習に取り組む意欲が喚起されるような教材開発の工夫を進める。	
取組④ 【区分 理 科】 観察・実験について、機会、内容のより一層の充実を図る。 (カリキュラム改革関連)		B
指標	年間平均して週に1回の観察・実験を実施する。状況に応じて、二人の教員が互いの観察・実験の指導補助に入る。	
結果と 分析	各学年の実験曜日を設定することで、特別行事やテスト等で実施ができない期間を除くと、週1回の観察・実験の実施はおおむね達成でき、複雑な操作を伴う実験では補助に入り、安全かつ確実な実験を行うことができた。	
今後の 改善点	これまでも進めてきた実験機器などの整備を継続し、より高い教育効果が期待される実験環境を構築していく。	
取組⑤ 【区分 音 楽 科】 説明や模範を具体的に行い、スモールステップを踏みながら、取り組み前より「できた」「わかった」が実感できるようにする。(カリキュラム改革関連)		B
指標	目標について具体的に説明、模範を示す。中間で4割がC(A～Dの五段階)以上、最終で2割程度が中間より上位の評価をし、全体で6割がC以上の評価を自己評価カードに記入する。	
結果と 分析	自己評価はBが多かった。しかし、中間から最終でアップする様子は期待していた2割よりはなく、ほぼ横ばいだった。全体としてはC以上で目標は達成出来ているが、伸び率で考えると達成できていないので、工夫が必要である。	
今後の 改善点	中間とはいつつ、ほぼ完成した頃に自己評価をつける機会が多かった。課題を見つけ、自主的に力をつけるきっかけを作るために、もう少し早めに中間の自己評価をして、課題発見の機会にし、出来たの達成感に繋げる。	

目標別シート1-1【視点 学力の向上】 教科（美術～授業改善）

大阪市立大淀中学校

評価基準 A : 目標を上回って達成した

B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが、目標を達成できなかった

D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		達成状況
取組⑥ 【区分 美術科】 創造性を育む造形体験の充実を図るために、教科書・資料集以外に自主作成教材を使って指導する。(カリキュラム改革関連)		B
指標	作品の完成に向けてきめ細やかな指導を行い、個別に、プリント・ノート等を通して、制作過程の進度を点検していく。	
結果と分析	授業前に作業の進捗のチェック、授業中の机間巡視をとおして、なるべく個別に作業の進捗を点検し、できる範囲で作業のフォローを行った。	
今後の改善点	本校の生徒の興味関心・実態に応じた自主作成教材を再度検討し、次年度に見直していきたい。	
取組⑦ 【区分 保健体育科】 長座体前屈の記録を全国平均に近づける。(カリキュラム改革関連)		B
指標	柔軟性を高める運動を継続しておこない、年度末に計測し比較する。	
結果と分析	今年度の結果と比較してみると、男子は府平均をわずかに上回ったものの全国平均には届かなかった。女子は府も全国についても下回ってはいるが平均には近づいている。	
今後の改善点	年度末の測定で、女子は1学期とほぼ同じ測定結果だったが、男子に大幅な伸びが見られた。測定するたびに伸びているので、継続して柔軟性を高めたい。	
取組⑧ 【区分 技術家庭科】 自主制作教材や視覚的教材を使って、生徒の理解を深める。(カリキュラム改革関連)		B
指標	单元ごとにアンケートをおこない、生徒の理解を把握する。	
結果と分析	生徒の理解度を把握する上でアンケートは、良かったと思われる。	
今後の改善点	理解度がアンケート後上がっているかを確かめるアンケートなどが必要である。	
取組⑨ 【区分 英語科】 習熟度別学習の時間を通して、きめ細かい指導を行う。(カリキュラム改革関連)		B
指標	週2回程度は、複数教師で授業を行う。	
結果と分析	生徒アンケートの結果、「以前より英語がわかるようになった」の項目に肯定的な回答を出した生徒が全学年とも 70%を超えた。	
今後の改善点	アンケートにおける「わかるようになった」という気持ちや、学力の向上に必ずしもつながっていない部分もあるため、よりきめ細かい指導の工夫が必要である。	
取組⑩ 【区分 特別支援教育】 個別の指導計画を作成し、個の課題に応じた自立支援に努める。(カリキュラム改革関連)		B
指標	生徒一人ひとりの個別の指導計画を作成する。	
結果と分析	計画を立てることで優先すべき課題を吟味して個に応じた支援の手立てを考えることができた。	
今後の改善点	計画は定期的に見直しを図り、状況によっては方向転換をし、最善の支援に努める。	
取組⑪ 【区分 授業改善】 本年度の本校アクションプランの中でICT機器の活用をあげている。各教科の担当者がタブレット端末をいかに活用するかについて積極的に検討する環境を構築し、指導方法や指導内容の改善を進める。(カリキュラム改革関連)		B
指標	生徒アンケートを行い、端末を有効に活用できたか考えるか、端末の活用に効果があったと考えられるかについて、4段階で得た回答をもとに成果検証を行う。	
結果と分析	校長戦略予算等に採用されなかったため、校内予算で機器整備を進めた。活用について授業研究を進め、保護者・生徒アンケートの授業改善に係る取り組み項目において数値が向上した。	
今後の改善点	予算化の決定が遅いので、学校としての対応策をどのように考えていけばよいのかについて、今後検討していかなければならない。	

目標別シート1-2【視点 学力の向上】 教科（国語～音楽）

大阪市立大淀中学校

評価基準 A : 目標を上回って達成した

B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが、目標を達成できなかった

D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成 状況
○平成26年度学校評価アンケートにおける「自分が努力した過程や結果が適切に評価されている。」の「よく」を5%向上させる。(カリキュラム改革関連)	B

年度目標達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		達成 状況
取組① 【区分 国 語 科】 わからないところを質問できる授業を進める。 (カリキュラム改革関連)		A
指標	生徒アンケートを実施し、把握する。	
結果と 分析	アンケートの結果、各学年とも70%以上生徒が「質問しやすい」「どちらかといえばそう思う」と答えている。	
今後の 改善点	これからも、積極的に質問をする生徒を育てていきたい。	
取組② 【区分 社 会 科】 定期テスト以外のプリント、ノート、その他の提出物を評価する (カリキュラム改革関連)		B
指標	提出の機会を増やし、評価材料を25以上にする。	
結果と 分析	提出の機会は十分に達した。	
今後の 改善点	提出された課題の内容についてさらにていねいに評価するよう基準を吟味し、共通認識するようにしていく。	
取組③ 【区分 数 学 科】 提出物の点検や単元別テストを行い、学習の過程や到達度の振り返りを深める。(カリキュラム改革関連)		B
指標	小テスト・単元別テスト・ノート点検・問題集点検をきめ細かく実施する。	
結果と 分析	毎授業ごとのプリント点検、定期的な小テスト、ノート点検、問題集の点検を行い、各生徒の学習過程を点検し、評価および指導を行った。	
今後の 改善点	さまざまな観点の評価がより適切にできるよう、評価材料の開発に努める。	
取組④ 【区分 理 科】 到達目標を意識した実験、レポートの作成を指導する。 (カリキュラム改革関連)		B
指標	観察・実験の際に到達目標を示し、その達成状況を毎回の実験後に作成・提出する実験レポートをもとに評価する。	
結果と 分析	レポートの添削とともに、項目ごとの目標達成状況に応じてA、B、Cの評価を行い、観点別評価の資料とした。	
今後の 改善点	生徒の学習状況の把握に努め、毎回の実験レポートなどの評価の観点や、標準的な達成目標とするB基準についてさらに吟味したい。	
取組⑤ 【区分 音 楽 科】 プロセスにも注意を向け、音楽の力がついたと実感出来るようにする。 (カリキュラム改革関連)		B
指標	自己評価カードにおいて、中間で4割がC(A～Dの五段階)以上、最終で6割がC以上の評価を自己評価カードに記入。年度末に「音楽の力が4月よりもつuitたと感じる」の質問に6割がややそう感じる・そう感じると回答する。	
結果と 分析	「～ってなんでした？」と質問し、答えてもらい「よく覚えたね」と声掛けできることがあった。力がついた実感に繋がると考える。しかし、これらが力がついたとはしっかり実感できているとは限らない。どう実感させるかが今後の課題。	
今後の 改善点	「音楽の力」とはなんなのかを具体的に提示する必要があった。歌が上手くなる等耳に聞こえたりするものだけではなく、知っていることが増えたことやいいなと思うことが増えたこともそれである。もっと明確に次年度提示する。	

目標別シート1-2【視点 学力の向上】 教科（美術～特別支援教育）

大阪市立大淀中学校

評価基準 A : 目標を上回って達成した

B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが、目標を達成できなかった

D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		達成状況
取組⑥ 【区分 美術科】 ひとつひとつの作品に対して自己表現の実現ができるよう、作品をファイルにంచి、作品完成後、自己評価表を記入し提出させる。(カリキュラム改革関連)		C
指標	作品ごとに、自己評価表に記録することで、達成感・満足度を確認する。	
結果と分析	作品・プリントは各日のクリアファイルに入れるようにしている。自己評価表に記録する部分で、2・3年でまだ未記入の作品がある。	
今後の改善点	紙ファイルに各自プリント類をとじていくように次年度からはする予定。自己評価表に制作途中の進捗状況に応じて記入できる欄を追加するとかの見直しをする必要がある。	
取組⑦ 【区分 保健体育科】 単元ごとに自己評価シートを作成する。(カリキュラム改革関連)		B
指標	単元終了ごとに自己評価と取り組んだ感想を確認する。	
結果と分析	自己評価した後に実技テストの結果を返し、自分のつけた評価と照らし合わせるようにした。感想についても詳しく書くように指導し、今後の参考にした。	
今後の改善点	自己評価シートへの記入が定着してきているので、継続しておこなう予定である。持久走で作っているような単元ごとの細かな内容の評価シートを作っていきたい。	
取組⑧ 【区分 技術家庭科】 作品の発表の場を増やす。(カリキュラム改革関連)		B
指標	作品に対して、生徒同士の評価や自己評価も取り入れる。	
結果と分析	自己評価や他の作品を評価することによって作品の完成度が上がった。	
今後の改善点	評価のポイントや理由を発表するなどを行うことで作品評価の向上も上げたい。	
取組⑨ 【区分 英語科】 小テストや課題への取り組み、またノートを書いて理解する過程を複数教師できめ細かく指導する。(カリキュラム改革関連)		B
指標	継続的に小テストを実施し、週2回程度複数教師で課題やノートなどの点検を行う。	
結果と分析	定期的・継続的に単語テストやリーディングテストを実施し、ほとんどの生徒たちが意欲的に取り組んだ。しかし、課題の点検が十分にできない時もあった。	
今後の改善点	複数教師で入る授業時に、課題の点検をきめ細かく行う時間を確保し、学習のつまずきに気づけるように努める必要がある。	
取組⑩ 【区分 特別支援教育】 学校生活での成長をできた瞬間に伝え、自信を持たせる。(カリキュラム改革関連)		B
指標	日々の言葉がけ、連絡帳、文章表記を活用する。	
結果と分析	それぞれの力量に合わせたできる課題とチャレンジ課題を用意して学習した。できる課題が定着し、自信がつくと新しい課題に挑戦する気持ちに繋げることができた。	
今後の改善点	反復練習をするとともに、ひとりで集中して取り組めるように指導していく。	

目標別シート2【視点 道徳心・社会性の育成】 学校運営

大阪市立大淀中学校

評価基準 A : 目標を上回って達成した

B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが、目標を達成できなかった

D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成 状況
○平成26年度学校評価アンケートにおける「学校は、地域のボランティアを活用するなど、外部の人材を活用している。」数値を5%向上させる。(ガバナンス改革関連)	B

年度目標達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成 状況
<p>取組 【区分 学校・家庭・地域の連携の推進】</p> <p>教科学習以外の多様な学びの場を設定し、地域のボランティアの協力を得て、体験による「話」、会得した「技」に学ぶ内容の講座を年間を通して企画・運営する。また言語活動の取り組みにはボランティアを招聘し、図書館活動では、放課後の開館を定着させ、読み聞かせでは、各学年学期に1回の行事を実施する。(ガバナンス改革関連)</p>	A
<p>指標 計画行事に行事が実施でき、年度末の保護者アンケート結果に反映できている。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

・平成26年度学校評価アンケートにおける「学校は、地域のボランティアを活用するなど、外部の人材を活用している。」については、75%(1年:67% 2年:77% 3年:82%)となった。平成25年度(全体:76% 1年:73% 2年:74% 3年:80%)とほぼ横ばいの傾向にあるが、今年度の1年生の結果が低くなっている。これは、1年生のボランティア招聘が3学期となっていたため、保護者に周知できていなかったことが原因と考えられる。

・教科以外の多様な学びの場である「学びTAI」では、全校生徒を対象に、地域ボランティア、本校卒業生の協力を得て、体験による「話」、会得した「技」等、様々なジャンルでの講座を実施することができた。今年度は、企画から講師依頼まで元気アップ地域コーディネーターを中心に運営することができた。

・読み聞かせでは、昨年と同様、ボランティアの協力により、3年生が1学期、1年生が2学期、2年生が3学期に各学級ごとに実施することができた。

今後の改善点

・「学びTAI」の活動は、生徒たちに多様な学びの場として非常に効果的であった。今年度は本校の卒業生も講師として招聘できた。今後、キャリア教育の一環として発展させていきたい。

・図書館活動は生徒の読書の場として、また、生徒が自学自習できる場として、図書館の環境整備と蔵書の整理をさらに進めていきたい。

・読み聞かせは、次年度も各学年、学期に1回実施していくよう計画していく。

目標別シート2【視点 道徳心・社会性の育成】 進路

大阪市立大淀中学校

評価基準 A : 目標を上回って達成した

B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが、目標を達成できなかった

D : ほとんど取り組みず、目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成 状況
○平成26年度学校評価アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えている。」の数値を70%に向上させる。(カリキュラム改革関連)	B

年度目標達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		達成 状況
取組【区分 キャリア教育の推進】	1年生では、職場訪問、2年生で、職場体験、3年生で、外部指導員による、キャリア体験を実施する。(カリキュラム改革関連)	B
指標	キャリア学習を、各学年ともに予定通り行う。	
取組【区分 小中一貫した教育の推進】	小学生の中学校授業体験と部活動見学の日を6月末に実施する。(カリキュラム改革関連)	B
指標	授業体験、部活動見学を年1回行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<p>① 2年生の職場体験、及び事後の発表会、3年生での外部指導員によるキャリア学習、1年生の職場訪問及び事後の報告会を実施した。 また、ヒューマンアカデミーによる2年キャリア学習、企業家ミュージアムによる1年生キャリア学習を実施した。</p> <p>② 中学校区小学校6年生に、国・数・英・理・技・美の6教科授業体験を、6班編成で行い、その後部活動見学を実施した。これで中学校に対しての抵抗感が、かなり払しょくされた。多くの児童が希望を持って本校入学を目指している。</p> <p>①、②の取組区分での目標は達成できたが、年度目標の「将来の進路や生き方について考えている。」の70%の数値には、達しきれなかった。</p>		
今後の改善点		
<p>① 次年度以降も、各学年のキャリア教育を系統だって実施していき、子どもたちの興味関心に応えていきたい。</p> <p>② 小中一貫した教育の推進のため、次年度も同様の取り組みを、その内容を吟味しつつ継続していきたい。</p> <p>70%の数値を、達成しきれなかったことを踏まえ、次年度には進路取組内容をさらに工夫して実施し、生徒たちが進路について考える機会を増やす必要がある。</p>		

目標別シート2【視点 道徳心・社会性の育成】 道徳

大阪市立大淀中学校

評価基準 A : 目標を上回って達成した

B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが、目標を達成できなかった

D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成 状況
○平成26年度学校評価アンケートにおける「学校のきまりや社会のルールを守っている。」の「よく」を5%向上させる。(マネジメント改革関連)	B

年度目標達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成 状況
<p>取組 【区分 道徳教育の推進】 道徳授業において、『私たちの道徳』から「法やきまりを守り社会で共に生きる」の単元で掲載されている教材を各学年に応じて学習する。さらに、道徳副読本の教材の中から、上記目標に該当したものを優先的に学習する。 (マネジメント改革関連)</p>	B
<p>指標 『私たちの道徳』より該当教材を1学期で扱うとともに、副読本を用いた道徳授業のうち、少なくとも各学期ごとに1回は上記目標に該当した読み物教材を扱う。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>本年度学校評価アンケート(生徒アンケート)の「学校のきまりや社会生活のルールを守っている。」の項目において、「よく」と回答した生徒が前年度39.0%に比べ、本年度43.4%に向上している。さらに、「よく」に「やや」を加えた肯定的な回答をした生徒の割合で比較すると、前年度82%に比べ、本年度88%と大幅に向上している。これは学校生活のあらゆる場面で実践してきた道徳教育の成果であると考えられる。</p>

今後の改善点
<p>本校生徒の規範意識は平均して高いものである。しかしながら、肯定的な回答をできない生徒がいることも現実である。きまりやマナーの意義を理解し、すべての生徒が自信を持って肯定的な回答をすることができるよう、学校生活のあらゆる場面での道徳教育を継続したい。</p>

目標別シート2【視点 道徳心・社会性の育成】 生活指導

大阪市内立大淀中学校

評価基準 A : 目標を上回って達成した

B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが、目標を達成できなかった

D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成 状況
○平成26年度学校評価アンケートにおける「自分の考えや意見を自分の言葉で発表している。」の数値を60%に向上させる。(カリキュラム改革関連)	B

年度目標達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成 状況
取組 【区分 自主活動の育成】部活動や委員会・生徒会活動を通して生徒自ら主体的に活動していく機会を増やしていく。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 年間を通じて行事を中心に自分で考え、発表する機会を多くしていく。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

学校評価アンケートにおいて「自分の考えや意見を自分の言葉で発表している。」の数値が「よく」「やや」を合わせて60%以上となった。おおむね目標は達成できている。

生徒会役員選挙や体育大会など生徒が全校生徒の前で発言する場面で、自分の考えや気持ちをうまく表現できていた。先輩たちの姿を見てよい伝統として受け継がれていると考えられる。

今後の改善点

今後も行事を中心に自主的に考えて発言できるよう、点検・指導しながら機会を増やしていきたい。

しかし、アンケートにおいて「よく」と答えた割合が2割程度とまだまだ多くないので課題である。

評価の視点や声掛けを見直し、生徒が主体的に活動できたと実感できるような体制を整えていきたい。

目標別シート3 【視点 健康・体力の保持増進】 健康教育（1）

大阪市立大淀中学校

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成 状況
○平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である「長座体前屈」の記録を、全国平均並みに向上させる。(カリキュラム改革関連)	B

年度目標達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成 状況
<p>取組 【区分 体育科 の授業の充実】 長座体前屈の記録を向上させる運動を導入する。 (カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 柔軟運動を継続しておこない、年度末に計測する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>今年度2年生の体力・運動能力調査、長座体前屈の記録</p> <p>男子 全国平均 42.92cm 府平均 41.09cm 学校平均 1学期41.17cm/年度末 45.60cm</p> <p>女子 全国平均 45.23cm 府平均 44.32cm 学校平均 1学期44.15cm/年度末 44.23cm</p> <p>男子は、1学期の時点では府平均をわずかに上回り、全国平均には届いていなかった。しかし年度末に測定した結果、大幅な伸びが見られ、全国平均を上回った。</p> <p>女子では年度末の測定結果も含めて、大阪府平均にわずかに及ばなかった。</p>
今後の改善点
<p>昨年度より、男女とも長座体前屈の記録を一層高めるように柔軟運動を工夫して取り組んできた結果、体力・運動能力調査、長座体前屈の記録は今年度全国平均には届かなかったが、近づいた。</p> <p>今後も継続して柔軟性を高める運動をおこない、ケガにつながらない体づくりをしていきたい。</p>

目標別シート3 【視点 健康・体力の保持増進】 健康教育（2）

大阪市立大淀中学校

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成 状況
○平成26年度学校評価アンケートにおける「自分の健康に気をつけている。」の「よく」と答えた数値を40%に向上させる。(カリキュラム改革関連)	B

年度目標達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		達成 状況
取組	【区分 健康な生活習慣の充実】 ①保健委員会で、健康的な生活習慣の意識づけを目的とした活動を積極的に行い、生徒一人一人が健康に気を付けるように取り組んでいく。(カリキュラム改革関連) ②学校保健委員会で、課題解決に向けた具体的な活動の推進をするため、発表の充実に取り組む。(カリキュラム改革関連) ③食に関する知識を身につけるため、学校給食を生きた教材とし、技術・家庭科(食生活と自立など)など関連する教材と連携し、指導を行う。(カリキュラム改革関連)	B
指標	生徒に健康の大切さを学ばせるために、「保健だより」や「食育だより」・「給食だより」などの資料を定期的に発行し、健康意識の向上を図る。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
①保健委員会において健康目標の達成を目指して各クラスで呼びかけやポスター制作等に取り組んだ。		
②生徒の保健委員は、「睡眠について」をテーマに生徒対象でアンケートを実施し、その結果を文化祭で発表した。また、発表の浸透性を調べるために再度アンケートを実施した。		
③食に関する指導について、技術・家庭科と連帯し、計画的に指導を行い、学校給食を生きた教材として活用した。また、1年生については、給食の時間に家庭科の学習と関連する内容で指導を行った。6月と11月に実施し喫食調査結果では、喫食率は、増えており、嫌いなものでも食べようとしたりする態度が見られるようになった。		
今後の改善点		
①生徒全体に自分の健康を意識させるよう啓発する場を多くする。		
②アンケート結果の返し方の工夫や発表の仕方などを考えていく必要がある。		
③食に関する指導については、関連する教科と連携、学級活動・総合的な学習の時間、給食の時間など、指導を行う機会を増やすように努めたい。		